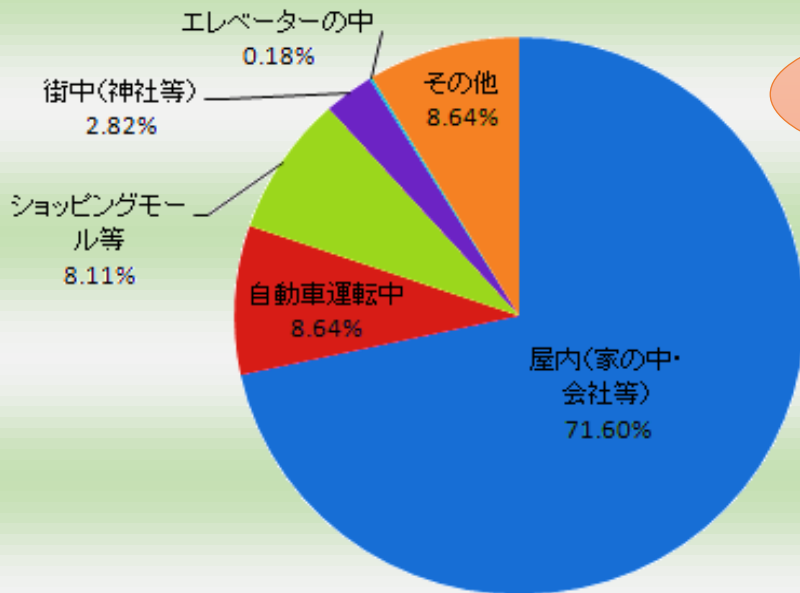


能登半島地震に伴う 避難行動調査結果

【地震発生時に居た場所】

元旦ということもあり、在宅中の回答者が大半を占める一方で、ショッピングモールや神社に居た、または、車で移動中という回答も多くみられました。



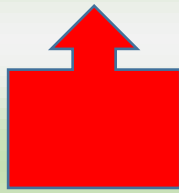
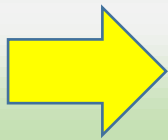
緊急地震速報は、9割以上が受信していました。



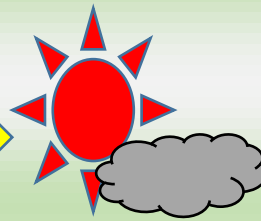
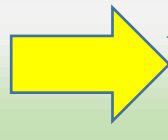
豆知識！緊急地震速報とは？



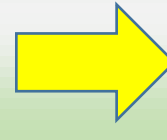
地震発生



地震計
震源近くの地震計で
地震波をキャッチ



気象庁
地震や規模、予想される
強さ等を自動的に計算し
緊急地震速報を発表

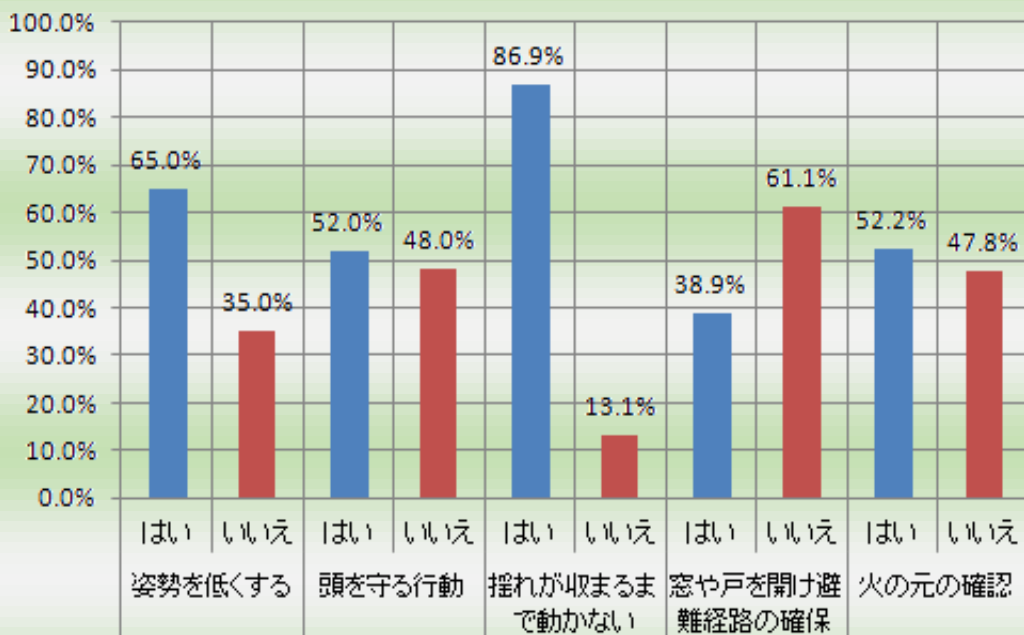


テレビやラジオなどで
地震による強い揺れ
が始まる前に素早くお
知らせ

※最大震度が5弱以上または最大長周期地震動階級が3以上と予想された場合に、震度4以上または長周期地震動階級が3以上(立っているのが困難な状況)が予想される地域を対象に緊急地震速報が発表されます。

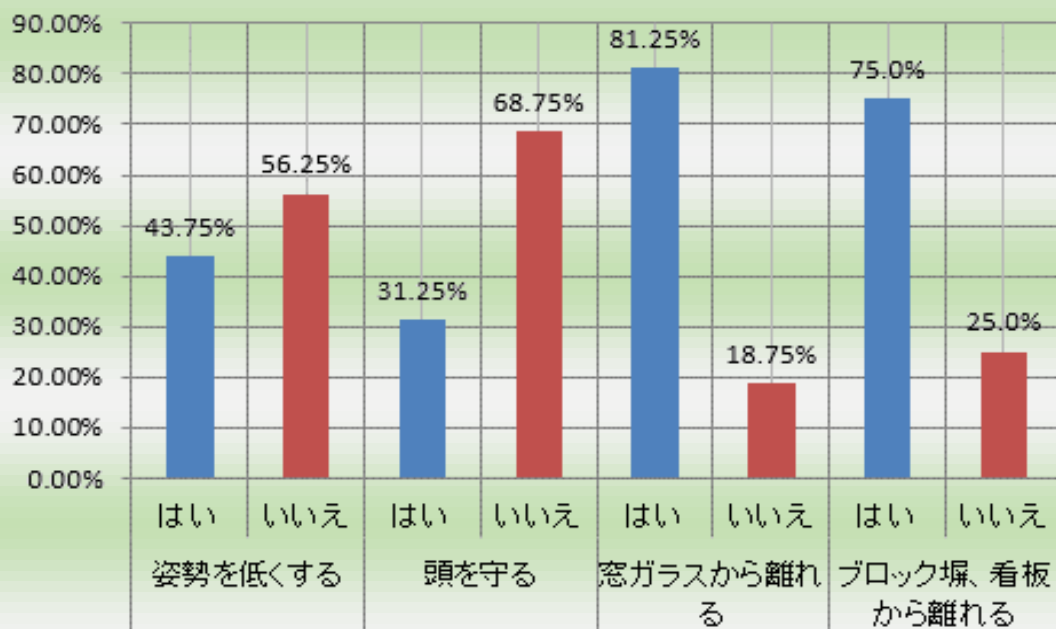
【屋内での避難行動(自宅、会社等)】

姿勢を低くする、揺れが収まるまで動かないことは落ち着いてできたものの、頭を守る行動や火の元の確認が約半数、脱出口となる玄関や掃き出し窓等の通路の確保が6割以上できていないことがわかりました。



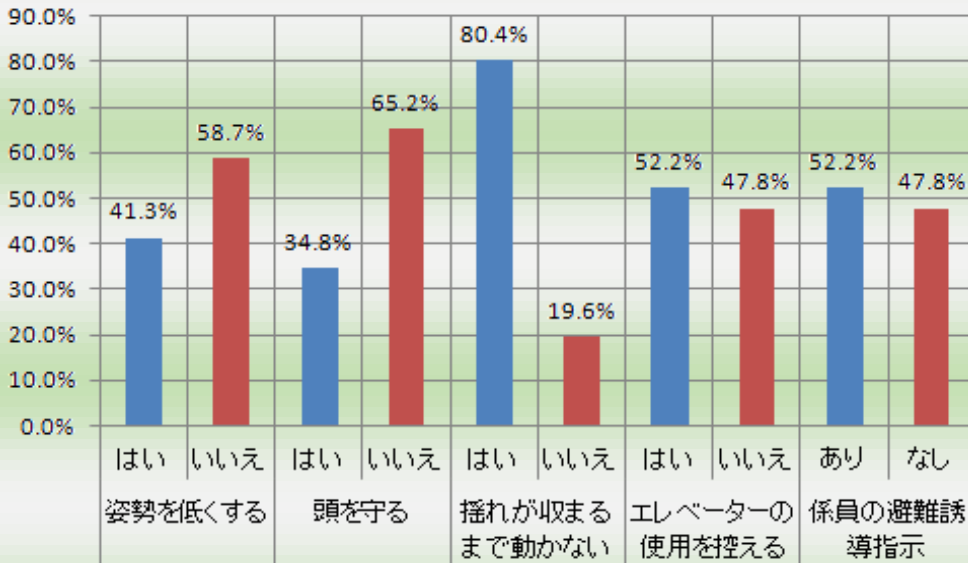
【屋外での避難行動】

7割以上の回答者が倒壊危険のあるブロック塀や看板及び窓ガラスがある建物から離れることができていたが、姿勢を低くしたり頭を守る行動がとれなかったりした回答者が屋内に比べて大幅に上回りました。



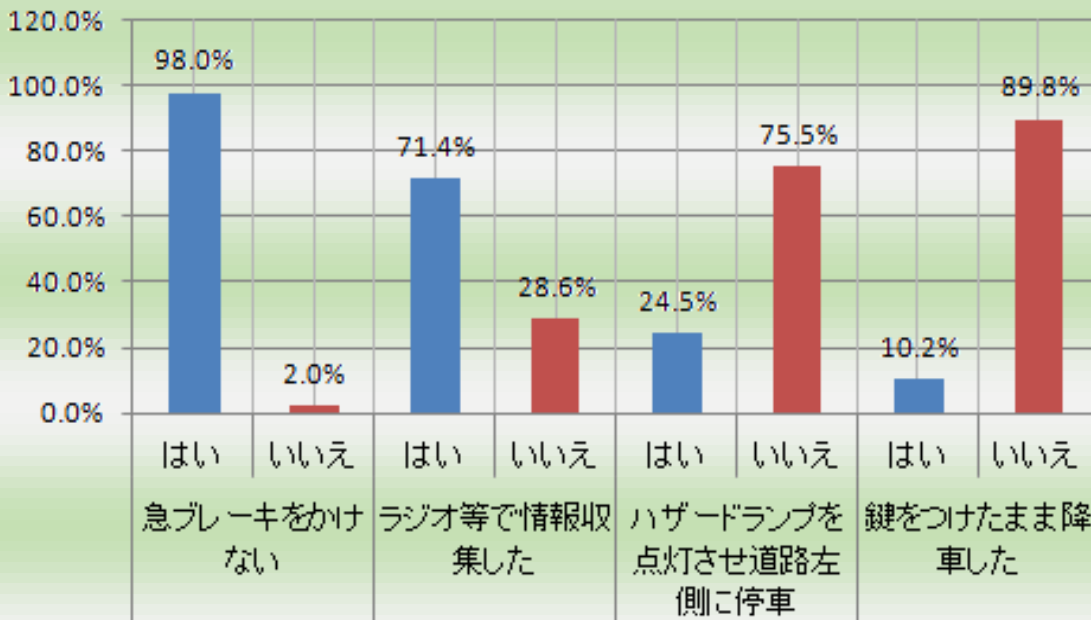
【ショッピングモール等での避難行動】

元旦に営業しているショッピングモール等の大規模な店舗における調査においては、姿勢を低くしたり、頭を守る行動が自宅内や会社等における結果に比べて低い結果となりました。これは、約半数の店舗で従業員の避難誘導や指示が行われていないことに起因し、利用者が何らかの指示を待っていたか、または、正常性バイアスが働いた可能性が高いと感じられました。



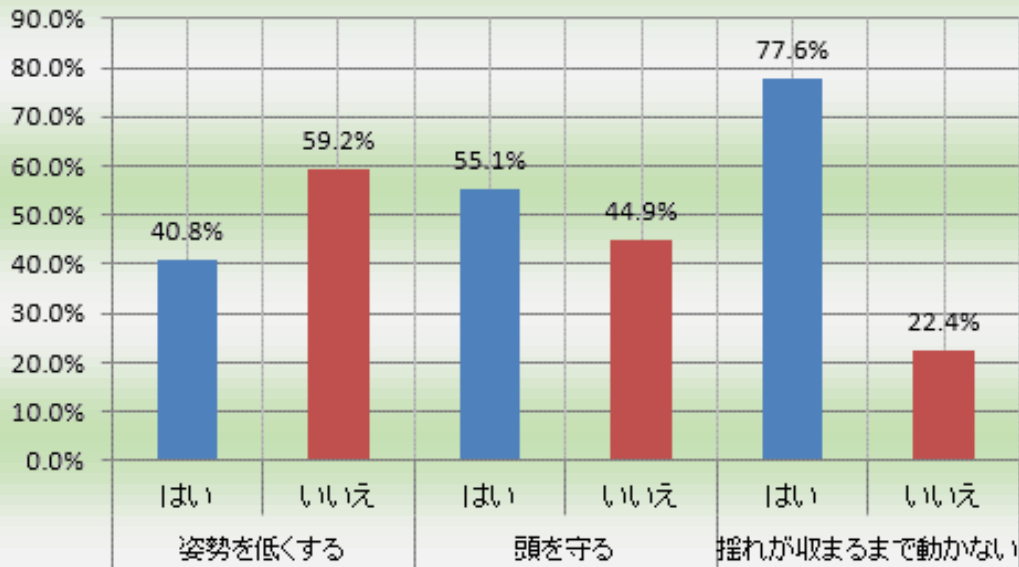
【自動車運転中の避難行動】

急ブレーキの回避や落ち着いて情報収集ができたという回答者が大半であったが、管轄内地域においては、震度3から4程度の地震であったため、ハザードランプを点灯し、道路左側にゆっくり停車したといった回答や車のキーをつけたまま避難したという回答は少なかった。



【地震発生時がその他と答えた回答者の避難行動】

その他の回答者の中には、自宅の庭やコンビニ、遊技場等の正月から営業している店舗等にいたことが想定されるが、頭を守る行動や揺れが収まるまで動かないことはできたものの、姿勢を低くする行動は約6割の回答者ができていないことが分かった。



能登半島地震を振り返って

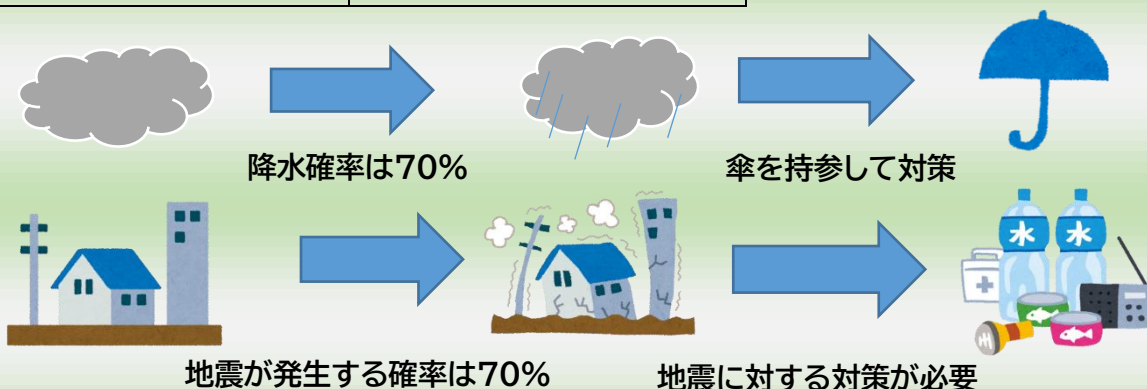
今回の能登半島地震に伴う管轄内地域付近では、震源地から約300km程度離れていたが、緊急地震速報から数秒で揺れが到達し、地域によってはかなりの揺れで恐怖を感じた方も少なくないのではないのでしょうか？

本調査によって、揺れが収まるまで動かなかったという回答が非常に目立つが、低い姿勢や頭を守る事ができていない結果から、地震時の身を守る行動によるものであったというより、何もできず動くことができなかった可能性も否定できないのではないのでしょうか？

南海トラフ地震の発生確率及び予想される震度

東日本大震災と同等クラスのマグニチュード8～9の巨大地震が20年以内に起こる確率は60%程度、30年では70%～80%、40年では90%程度とされています。(地震調査委員会 2022年1月1日時点の評価)

尾三消防本部管内	震度
豊明市	<div style="font-size: 2em; color: red; font-weight: bold;">6強</div>
日進市	
みよし市	
長久手市	
東郷町	



震度階級は10段階！

今回の地震による管内最大震度は4であり、避難に迷われた方も多数いたと思われるが、震度階級が一段階上がり5弱となった場合には状況は一変し、屋外では建物の窓ガラスが割れて飛散したり、屋内では棚の食器類や書棚の本などが落ちたり、固定していない家具が移動する場合があります。

震度とゆれの状況



この表は、ある震度が観測された時に、その周辺で発生するゆれなどの現象や被害の目安を示したものです。

詳しい解説は以下の気象庁ホームページに掲載しています。

気象庁震度階級関連解説表 <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/shindo/kaisetsu.html>

災害を忘れないで！！

本アンケート調査結果を踏まえ、ひとりひとりが早めの避難行動と普段からの防災意識を念頭に、今一度各家庭や事業所における減災対策を見直していただき、併せて、通電火災※など火災の発生を抑制する対策についても意識してください。

※通電火災とは、地震などの災害により停電が起きた後、電気が復旧した時に発生する火災です。



通電火災を防ぐために、感震ブレーカーを設置しよう！

